

「ヘンリー六世」と英仏戦争

・ {ヘンリー六世}執筆時の時代背景。

{ヘンリー六世}は、1592,3年頃に書かれ、シェイクスピア全作品(37or40)の中で、デビュー作とされている。弱小国家だったイングランドが、1588年スペイン無敵艦隊に勝利してイングランドとしての誇りが確立した。

戦闘シーン、舞台上での立ち回りが人気だった。(大衆剣劇?)当時の観客の多くは剣を身に着けていた

・ ヘンリー六世とはどの時代の王だったか? 物語の時代背景

・ フランスとイングランドの百年戦争(1337~1453)

・ バラ戦争(1455~1485)

1066年に英国はノルマンディ公ウイリアム(フランス人)に征服され、当時10万人位のフランス人がイングランドに移り住み、実質全ての統治に関わる部分はフランス人が占めた。フランス語が公用語となり、王は勿論フランス語を話した。ヘンリー6世の祖父のヘンリー4世が英語を話す初めての英国の王であった。百年戦争はフランス王シャルルが没してその後のフィリップがイングランド王エドワード3世のフランス領内の領地を認めなかったために始まった。エドワード3世の母親はフランス王シャルルの姉であったためフランス内の領地の相続権を主張した。エドワード3世の没後長男の子であるリチャード2世が引き継ぐが、エドワード3世の4男ランカスター公ゴーストのジョンの息子ボリングブルックが王位を横取りしてしまう。それがイングランド王家のトラウマになっている。ヘンリー4世、5世と引き継がれるが、ヘンリー5世は戦いによってフランス内の領土のほとんどを得て、フランス王となった。そこに現れたのがジャンヌ・ダルクである。フランスの反撃が続き、1422年ヘンリー5世がパリで没したため、ヘンリー6世がわずか生後9ヶ月で王位に就くがイングランドはフランス内の殆どの領土を失った。ヘンリー6世は自ら戦わない初めての王だった。

. 歴代イギリス王

(ケルトの時代)

1. アングロサクソン系 (828 ~ 1016)

2. デンマーク王家 (1016 ~ 1042)

エドワード (フランス的)

3. ノルマン朝 (1066 ~ 1154)

ウィリアム ノルマンディー公ウィリアム イングランド征服

4. プランタジネット朝 (1154 ~ 1399)

(1192 鎌倉幕府成立)

1. ヘンリー (アンジュー伯アンリがヘンリー 世として即位(アンリドプランタジュネ)

2. リチャード 家紋えにしだ(planta genista)の枝

ジョン

4. ヘンリー

5. エドワード

6. エドワード

エドワード -

(1338 室町幕府成立

リチャード

足利尊氏征夷大將軍)

5. ランカスター朝(赤バラ) (1399 ~ 1461)

英仏戦争(1337 ~ 1453)

ヘンリー

ヘンリー

ヘンリー

6. ヨーク朝(白バラ) (1461 ~ 1485)

(1449 足利義政)

1. エドワード

バラ戦争(1455 ~ 1485)

(1467 応仁の乱)

2. エドワード

リチャード

7. テューダー朝

1. ヘンリー

ヘンリー

3. エドワード

4. メアリ

5. エリザベス(1558 ~ 1603)

1564 シェイクスピア誕生

1588 スペイン無敵艦隊アルマダ撃滅

1592, 3頃 {ヘンリー六世}執筆

.登場人物

イギリス側

- a) ヘンリー六世
- b) ベッドフォード公爵 王の叔父(ヘンリー4世の第3子)フランスの摂政
- c) グロスター公爵 王の叔父(ヘンリー4世の第4子)摂政
- d) エクセター公爵 王の大叔父(トマス・ボーフォート)
- e) ウィンチェスターの司教 王の大叔父(ヘンリー・ボーフォート、エクセターの兄、のちに枢機卿)
- f) サマセット公爵
- g) リチャード・プラントジネット 故ケンブリッジ伯爵(エドワード3世の孫)の子、後のフランス摂政、ヨーク公
- h) ウォリック伯爵 リチャード・ド・ビーチャム
- i) ソールズベリー伯爵 トマス・ド・モンタキュート
- サフォーク伯爵 ウィリアム・ド・ラ・ポール
- トールボット卿 のちにシュルスベリー伯爵
- j) エドマンド・モーティマー マーチ伯
- サー・ジョン・ファストルフ
- サー・ウィリアム・ルーシー
- サー・ウィリアム・グランズデイル
- サー・トマス・ガーグレイヴ
- ロンドン市長
- ウッドヴィル ロンドン塔の長官
- ヴァーノン(白バラ派) バッセット(赤バラ派) 弁護士

フランス側

- シャルル フランス皇太子、のちにシャルル7世
- ジャンヌ・ダルク
- レニエ アンジュー公爵、ナポリ王の称号を持つ
- マーガレット レニエの娘、のちにヘンリー6世の王妃
- パーガンデイ公爵 フィリップ善良公
- アランソン公爵
- オルレアンの私生児 デュノワ伯爵ジャン
- パリ市長
- オルレアンの砲台長 と その息子、オルレアンの隊長
- ボルドーのフランス軍指揮官
- フランス軍番兵、偵察兵
- 門番
- 老羊飼 ジャンヌ・ダルクの父
- オーヴェルニュ伯爵夫人

「ヘンリー六世」の物語

第1部 英仏百年戦争

イングランドでは先王ヘンリー五世の葬儀がエクセター公、ベッドフォード公らにより執り行われている。フランスでは英仏軍が戦っているが、イギリス軍は貴族間の対立が原因で皇太子シャルル率いるフランス軍に苦戦。イギリスの勇将トールボットは苦戦し、天啓を受けたと称するジャンヌ・ダルクの加勢もあり、フランス軍がイギリス軍を圧倒する。

同じ頃ロンドンではリチャード・プランタジネット(後のヨーク公)とサマセット公との争いに端を発し、貴族が二派に分かれて対立。ヨーク方(ウォリック伯やリチャード達)は白バラ、ランカスター方(サフォーク伯やサマセット公達)は赤バラを手にしたことからバラ戦争への萌芽が生じる。そのような折、リチャードはロンドン塔に幽閉されている伯父モーティマーを訪ね、自らの血統の由緒を知り、自分こそ王家の正当な後継者だと思い至る。その後ウォリックの仲介でリチャードの復権が認められ、ヘンリー六世臨席の場でヨーク公に叙せられる。

フランスでの戦闘は激化。トールボットは戦死。ウィンチェスターの画策により、ローマ法王や皇帝の仲裁があり、英仏両軍の和議が提案される。ウィンチェスターは金銭により法王より枢機卿に叙せられる。フランスのアルマニャック伯爵の娘とヘンリーが婚約する。ジャンヌも捕らえられ火刑に処され、英仏両国の和議が結ばれる。サフォークはフランスのレニエ公の娘マーガレットの美しさに惹かれ、アルマニャック公爵の娘との婚約を破棄して、マーガレットをイングランド王妃に迎えようと画策、ヘンリーとの結婚をとりもつ。

第2部 敗北と混乱

ヘンリー六世とマーガレットの挙式が華々しく執り行われるが、王妃を迎えるためフランスにあるイギリス領の一部をフランスに返還することになり、それを嘆くグロスターと枢機卿ボーフォートは激しく対立する。貴族たちにも不満が起こる。

グロスターの妻エリナーは夫を王位につけようとする野心により、反逆罪で捕らえられる。グロスター自身も枢機卿とマーガレットの愛人サフォークの陰謀で暗殺される。しかし民衆たちの抗議もあり、サフォークは王により追放され、フランスへ逃げようとする途上海賊たちに惨殺される。

もう一方、王位を狙うヨークはアイルランドに遠征するが、留守中ジャック・ケイド率いる暴徒たちに反乱を起こさせる。ケイドはアイデンに殺される。ヨークがアイルランドから帰国し、王位を要求。ランカスターとヨークの対立が決定的となり、バラ戦争が始まる。

第3部 バラ戦争

ランカスター対ヨークの戦いの初めに勝利を収めたヨークはウリックと息子たちとともにヘンリーと対峙し自分の王位の正統性を主張、それによりヘンリーは自分の死後王位をヨークに譲渡すると約束してしまう。王妃マーガレットはこれに激怒し自ら軍旗を翻し戦闘に参加。ヨークを捕らえヨークの息子のランドの血の付いたハンカチで頬の涙を拭かせようとして殺し、首をヨーク市の城門に曝す。

ヘンリーはウォリック達に負けスコットランドに逃げる。ウォリックは、ヨークの長男エドワードを王位につけ、フランスのポーナ姫を王妃に迎えるよう提案。婚儀をまとめるためウォリックがフランスに行っている間に、エドワードはグレイ未亡人と結婚してしまう。ウォリックは激怒し、マーガレット達と和解し、エドワードに反旗を翻し彼を捕縛。ヘンリーは再び王位に復帰する。しかし、弟のリチャードにより捕らえられていたエドワードは助け出され再び挙兵、ウォリックは戦死、ヘンリーはロンドン塔に幽閉されるがリチャードにより暗殺される。マーガレットはフランスに送られる、完全なヨーク家の勝利に終わる。

. 物語の特徴

2項対立(あるいは関係)のドラマ

- ・ イングランド対フランス
- ・ ランカスター家対ヨーク家
- ・ 貴族階級対平民・庶民(職人、徒弟)
- ・ トールボット(1453没)対ジャンヌ・ダルク(1431没)

実際には会っていないが物語上では第1部第2幕早々に二人が登場。第3幕第2場で兩人出会う。

第3幕第2場 フランス ルーアン市の前

トールボット : フランスめ、この謀反、いずれ泣ながらに後悔させてやる、トールボットが貴様らの闇討ちから生き延びさえすれば、あの小娘が、魔女が、あの忌まわしい妖術使いが、この地獄のような不意打ちを食らわせやがった、我が軍は勝ち誇るフランス軍から逃げるのがやっとだった。

…。(シャルル、ジャンヌ・ダルクたちフランス側は城壁の上にいる。)

ベッドフォード : ええい、言葉ではなく行動でこの裏切りに復讐するのだ!

ジャンヌ・ダルク : 行動って、何をするつもり、白髪のおじいさん? 槍を折って、椅子に座ったまま死神と試合でもするの?

トールボット : フランスの汚らしい悪魔、悪意に凝り固まった魔女、淫乱な情夫どもに取り巻かれ、年老いた勇者を愚弄し、死に掛けている病人を笑いものにするのがお前のやり口か、卑怯だぞ。小娘。また一戦交えよう、でなければトールボットをこうして恥にまみれたまま死に追いやるがいい。

- ・ 父とその息子 砲台長父子、トールボット父子

第1幕第4場(第1部) オルレアン、オルレアンの砲台長(フランス側)とその息子の少年登場

砲台長 : 坊ず、分かっているな、オルレアンがどう包囲されているか、イングランド軍がその周辺をどう占領しているか?

少年 : 分かっているよ、お父さん、だから僕、何度も撃ったんだ、運が悪くて当たらなかったけど。

砲台長 : だがもう撃つな、言いつけを守るんだぞ、お父さんはこの町の砲台長だからな。

名誉を手に入れるために何か手柄を立てねばならない。皇太子のスパイが知らせてくれたのだが、

イングランド軍は街の郊外に陣を張って立てこもり、向こうに見えるあの塔の鉄格子の間から

ひそかに街の様子をうかがっている。そうやって、どうすれば最も有利に砲撃か攻撃を仕掛け、

我々を苦しめられるかを探っているわけだ。そういう不利な事態を阻止するために、

俺はあの塔に狙いをつけて大砲一門を設置し、今日まで3日間、敵の動きを見張ってきた。

今度はお前が見張る番だ。俺は行かねばならない。

何か動きがあったらすぐに知らせに來い、知事の官邸にいるからな。

少年 : お父さん、大丈夫だよ、心配しないで。敵を見つけたら、僕一人でやっつけてやる。

第1部第4幕7場ボルドー近郊でトールボットの息子の遺骸が運ばれ息子を抱いて死ぬ場面があるが、刀を抜かずに倒されたと伝えられている。ボルドー近郊サン・ジュリアン村の近くのトールボットの陣営があった場所に現在シャトー・タルボというワイン醸造所があり、トールボットの名が残されている。ちなみにボルドーはこの地を相続していたアリエノール・ダキテーヌがヘンリー2世との結婚(1152年)で、嫁入り財産としたためイングランド領だった。

第4幕第6場(第1部)トールボットの息子のジョンが包囲され、父親のトールボットが救出する。

トールボット : ...ジョン・トールボットはどこだ? 休め、一息入れろ。お前に命を与えた俺が、今死の手から救い出したぞ。

ジョン : ああ、父上。これで2度、私はあなたの息子になりました。

(長いセリフが続き、父親は息子に逃げるようにすすめる。)

トールボット : ...お前が死ねばお前の母が死ぬ、我が一族の家名も、俺の復讐も、お前の若さも、イングランドの名声も死ぬ。...お前が逃げ延びれば、全てが救われる。

ジョン : ...父上が勝ち得た全ての栄光にかけて誓います。逃げれば私はトールボットの息子ではない。これ以上逃げるとおっしゃっても無駄です。

トールボット : ではついて来い、命がけて戦う俺はダイダロス、お前はその息子イカロスだ、お前の命が愛しい、戦うなら父のそばで戦え、立派な働きをした上で、栄光に包まれて死のう。

父とその娘ジャンヌ・ダルク

第5幕第3場 アンジュー市の前。戦闘、ジャンヌ登場。

ジャンヌ : 摂政のヨークが勝ち、フランス軍は逃げる。さあ、たすけておくれ、呪文やお守りにこもる霊たち、私に予知能力を授け、未来の出来事の前兆を示してくれる精霊たちよ。...

(戦闘。フランス軍は敗走し、ジャンヌはヨーク軍に捕らえられる。)

第5幕第4場 アンジューのヨーク公爵の陣営

ヨーク : 火あぶりの刑を宣告された魔女を引き出せ。

羊飼(ジャンヌの父親) : ああ、ジャンヌ、お前の親父の胸はつぶれるぞ!...

やっと見つけたと思ったら、その若さでむごたらしい死に方をするのを見なきゃならんのか?

ああ、ジャンヌ、可愛い娘、ジャンヌ、わしも一緒に死にたい!

ジャンヌ : みじめたらしい老いぼれ、卑しい下郎! 私は高貴な血筋の生まれだ。お前など父でもなければ親戚でもない。

羊飼 : けしからん! 皆様方、いまのはでたらめです。わしが父親だ、村中が知っとります。...

ヨーク : 連れて行け、こいつは長く生き過ぎた、この世を害毒で満たすだけだ。

参考文献

ヘンリー六世 全三部	松岡和子訳	筑摩書房
シェイクスピア全集第7巻	小田島勇志訳	白水社
シェイクスピアは誘う	河合祥一郎	小学館
世界の歴史第10巻	佐藤彰一/池上俊一	中央公論社
世界各国史 イギリス史	大野真弓編	山川出版社
英仏百年戦争	佐藤賢一	集英社新書
シェイクスピアを楽しむために	阿刀田高	新潮文庫
双頭の鷲	佐藤賢一	新潮文庫